

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400061
法人名	(株)桜梅桃李
事業所名	グループホーム 和楽の家 東児 (桃ユニット)
所在地	岡山県玉野市西田井地2256-1
自己評価作成日	平成23年1月27日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390400061&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成23年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①日笠CL(精神科) 毎月第一水曜日往診 ②近藤医院(内科) 毎週水曜日往診 ③プライムケアデンタル(歯科) 毎週月曜日往診 ④訪問リハビリ毎週月、木曜日 ⑤訪問理容毎月第4土曜日 ⑥音楽療法毎月第2火曜日 ⑦メルヘンパン毎週水曜日 ⑧季節のイベント時各種ボランティアが来てくれる ⑨スタッフの研修制度が充実している	・認知症の専門医である日笠尚知医師が母体の理事である ・プライムケアの指導により、毎食後口腔ケア施行にて口腔内清潔が保たれている ・日常生活を自宅に居る時と同じように暮らせるよう生活支援を行っている ・メルヘン移動車を玄関前に横付けにし、入居者が好きなパンを選んでいる ・毎日、入居者と一緒に地区内のスーパーに買物に行っている ・裏の畑で収穫した新鮮な野菜を使って入居者と一緒に調理している ・毎月1回勉強会を開催している
--	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ホーム開設3周年を迎えます」と言われて、「えっ、そうだったかな」と思わせる程のゆとりや、頼もしさを感じるのは何故だろうか。訪問してみても順次その謎が解けてくる。開設当初、職員にとっては厳しすぎる程の基盤作りがしっかりと土台となっており、今や5～6年を経過したホーム程の業務を職員はこなしている。それだけではない。職員は生き生きと、それぞれの長所を十二分に発揮して、この住人の暮らしを楽しませ、元気にし、その人らしさを引き出している。管理者を始めとして全職員の「皆さんが自分の心のうちで折り合いをつけて、まあここでもええかと思って頂けるよう」願う心が、利用者一人ひとりに、じわじわと滲みているように思える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の職員の改善目標、又ホーム全体の目標を掲げて定期的に評価している。自分自身の振り返りができ少しずつではあるが次へ繋げている。	自己評価と外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて懸命に努力している成果は業務全体でよく分かるが、特に、「今年度の目標」を具体的に評価しやすいものに掲げ、継続して頑張ろうと言う姿勢は評価したい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の日、入居者と一緒に買物に行っている。夏祭り等行事の際、地区の皆様が来られ交流している。傾聴ボランティアの方が来られて交流している。年間を通して畑作りの際地区の方と交流が図れている。年2回地区の清掃にも参加している。	地域の方々の積極的な協力の様子がホームが制作している立派な写真集からよく伺う事が出来た。東児中学校の生徒のわくわくワーク(職場体験)の記録も見た。ホームのボランティアさん募集チラシからも、ホーム側の姿勢が分かる。	両ユニット共、利用者の素晴らしい意欲的な作品がホーム内に見付けられた。公民館等この地域で皆さんの作品や個々の生活の様子を見てもらい、交流するチャンスを設定すれば波及効果は大きいと思う。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玉野市の協力を頂き認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の方への理解を深めて頂けるように地域の皆様・家族等約40名に参加して頂いた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	勉強会、夏祭り、防災訓練、その他イベント時に運営推進会議を開きホームでの活動を実際に見て頂いたり、気が付いたこと等話し合い、質問があれば書面にて回答しご家族に送付している。	定められた通りに確実に運営推進会議を実施し、町内会・愛育委員・地域包括、そして家族の参加も多く有意義な内容となっている。昨年度の目標達成計画の中にこの会の充実、徹底を掲げ、不参加の方へも情報を届けるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症サポーター養成講座の際、協力を頂いた。また、日頃から介護保険課担当者の方と連絡を取り合っている。	第2回運営推進会議の中で20名余りの参加を得て講座を開いた時や、関係の行事の時等には協力、応援をしてもらっている。また、市の介護相談の方に支援してもらったり、何かあれば指導・助言を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会をして、当施設の現状把握をしている。ベットサークル使用の入居者様については、身体拘束の記録を記載している。玄関の施錠は、夜間(18時～9時)のみで日中は開放している。	十分納得して入居していない利用者も当然のことではあるが何人か居て、特に夕方になると「家に帰りたい」と言って車に乗り込もうとしたりするが、その人の意に添うよう職員は粘り強く対応している。声掛けのトーン等にも配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どういことが虐待なのかを勉強会で学習している。職員間で注意をし合えるような関係作りを目指している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会等を通して詳しく学ぶ必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行うのは、本社役員、エリアマネージャーで行っている。十分な説明を行い、不明な所を質問として受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回、運営推進会議を行い欠席の家族や地域の方に内容を文章にて知らせている。意見や要望を聞いて、それに対する返事も文章で送付している。	昨年度目標達成計画に注目する「利用者の発した心に残る言葉を書き留めよう」は職員のアンテナの貼り具合で波及効果は大きい。家族からの意見は「家族会」「運営推進会議」等から、また、日頃の訪問時に良く聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者が職員に運営についての意見をしっかりと聞き、本社に改善を求め改善につなげている。	職員間で何時とはなく色々な話し合いをしていて、その中から「これは」という内容については取り上げている。エリアマネージャーが話を聞く事もあるし、主任会議で検討して上へつなぐ事もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は職員に待遇についての意見や要望をしっかりと聞き、本社に改善を求め改善につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修、勉強会等施設での研修を実施している。また、個々の職員の状態に合わせて外部の研修を受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームや介護保険課と会合を持ち、情報交換やそれぞれの取り組み等を発表している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活史を理解し、それを踏まえた上で統一した利用者支援を心掛けている。尊厳を持った関わりを目指し、各々の利用者の思いを傾聴するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	丁寧な面接を通しての家族の精神的負担・孤立を軽減できるよ努めている。家族と連携しながら入居者の生活環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を通して得た情報を元に、アセスメント後1カ月後を目途にした暫定プランの作成、入居後際アセスメントをしその時の状態に応じたプランの立案をしている。必要に応じ、他のサービス利用も視野に入れる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のこれまでの生活史を把握し、家事、料理等出来ることは職員と共に行き、役割を持ち生活できるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族通信を送付し担当職員が1カ月の生活の様子を記入し情報を共有している。運営推進会議には、行事を組み入れ多くの方に参加して頂けるよう努め、話し合いの場を設けて理解を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院、病院の受診など家族の協力を得ている。	あるきっかけから偶然に味方して、〇〇さんとその仲良しが何十年振りの対面を実現でき、支援した職員も嬉しかったと言う話を聞いた。一人ひとりの生活歴を職員がしっかり共有しようと努力しているので、また、何か見つけられるかも知れない。	目標達成計画で実施している「本人の言葉を付箋にメモして貼る」という取組みに、この項目も加えてみてはどうか。ふとした本人のつぶやきから、心ワクワクするようなドラマを職員も一緒になって楽しめる事になるかも知れない。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時等、職員が入居者同士のコミュニケーションが取れるよう支援している。入居者の相性を考慮し共同作業をすすめている。居室で過ごすことの多い方とは共にお茶や会話を楽しむ時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の様子を尋ねたり、必要に応じて家族との支援作りに努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループワーク時に、現在の生活はどうか、どうしたいか尋ねたり、話の中で皆さんの思いを話してもらう。状態が変化すればその都度職員全体で考えている。	昨年度の目標達成計画では「本人の思いや意向を把握しても、それを職員がその場で流してしまっては勿体ない」として素晴らしい取り組みをしている。また、去年も感謝したが川柳という形にして、その人の本音を表に出す支援が素晴らしい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴、生活史、職歴、趣味等、入居に至るまでの経緯を十分に把握する。家族とも連絡を密にし、家庭での様子等の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の日課表に添った生活の中で、残存機能を活かし生き生きとした暮らしができているか、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月個別カンファレンスを行い、課題があれば話し合い改善を目指している。又、家族の意向も事前に聞いている。	玄関に担当者と一緒に皆さんの写真を微笑ましく見せてもらったが、担当者だけでなく職員全員で個々のより良いケアに向けて良く話し合いがなされている。家族の訪問も多く、職員ともよく話し合っている。	今の内であればまだ本人の意見が聞ける人も居るようなので、普段のお喋りの延長としてケアプランにつながる問いかけをしてみてもどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の日常の様子、スタッフのケアの実践状況等、細やかな個別記録を通して情報の共有を図り、介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、家族と何度も話し合い柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域で生活できるよう、家族、地域の方と意見交換する機会を設けている。運営推進会議に市関係者、地域包括支援センターの方が参加し、周辺情報等の情報交換、協力関係が築けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医、入居前のかかりつけ医での医療が受けられるように医療機関と関係を密に結んでいる。必要に応じ家族と共に同行し、普段の様子を伝えるようにしている。近況の情報提供書を送付している。	このホームの「売り」の一つと言っても良い程の医療連携があり、本人、そして職員も安心して日を送れるだろう。何よりホームの母体の医療法人が認知症の専門医院である事は、グループホームにとって大きな柱となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、常に入居者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。体調や些細な表情の変化でも気付いたら報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師と話をする機会を持ち、施設内での対応可能な段階で早く退院できるようアプローチしている。入院時には本人に関する情報提供している。出来るだけ面会に行き、家族と回復状況等情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向本人にとってどうあったら良いのか、施設が対応しうる最大の支援方法を踏まえて方針を職員で話し合っている。外部や内部での研修、講演会等で意識向上を図っている。家族の協力も得ながら医師、職員が連携を取り安心に納得した最後が迎えられるように随時意思確認を行いながら取り組んでいる。	ターミナルケアに関する事業所主体のマニュアルは制作し、かつて看取った経験もあるので、チャンスをつ捉えて職員間で話し合っている。そして、本人、家族が希望し、医療面・家族・職員の状況等の体制と連携が十分取れる事が確認出来たら取り組む予定である。	経験も有り、マニュアルも有るので「このホームとしてどのような条件の下でなら取り組む方向の検討を始めるか」医療関係者・職員・事業者関係・家族と良く話し合うチャンスを作ってみるのも良いだろう。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署、岡大医学部学生の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施して、入居者が急変した場合の緊急時対応についてマニュアルを作成し、職員が落ち着いて対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議後に非常災害時の勉強会をし、その後近年危惧されている大規模地震を想定した避難訓練を行った。火災についてはスプリンクラー、火災通報装置、消火器設置しておりそれらの使用方法を全職員に周知徹底を心掛けている。	昨年9月の運営推進会議に避難訓練を実施し、訓練後に「利用者がパニックになった時の対応も考えておいたら」等、良い意見が家族からも出た。ホームは平屋で不安材料は少ないが、近隣の人達の支援もいざという時は願っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	色々な場面でプライバシーを尊重したケアを心掛けている。入居者を人生の先輩であると意識しながら声かけを行っている。居室の入り口には、のれんをしている。また、トイレ前にカーテンをし、プライバシーの保護をしているトイレもある。	Aさんは家族が訪問しても殆んど記憶にないので、職員はAさんの居室にノートを置いて家族にメッセージ等書き残してもらうよう工夫している。このように、このホームではそれぞれの状況に合わせて色々な温かな支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、コーヒータムで入居者の間に職員が入り、グループワークを行っている。(主役体験) 外出、行事食等は、グループワーク時等に入居者様の意見、希望を聞き入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、毎日の生活を自分のペースで行えるように相談しながら行っている。買物、調理、散歩等望まれることで、職員と共に楽しめるように個別対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の際、お化粧品等のお洒落を楽しんでもらえるように取り組んでいる。更衣時は好みの物を共に用意している。訪問利用を利用しているが、行きつけの店がある方は、その店を利用できるよう連携を取っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、後片付け等入居者と共に行い、食事は、職員も同じ物を食べながらテーブルを囲み明るい雰囲気での食事を心掛けている。家庭菜園で採れた新鮮な野菜を取り入れ、季節感を感じながら食欲増強に努めている。	「食べる事」をこのホームはとても大切にしており、野菜の下拵え、調理・盛り付け・後片付け等、男女関係なく、手際良い働きをする人が多い。「私は食べる人」も居て、食事風景も皆一緒に和やかだ。特に「口腔ケア」にも力を入れ、今年目標にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはバランスを考えて職員が考えている。水分、食事摂取量の把握を行い、個々の体調管理に努めている。体調等に合わせ、食事が摂れない場合は高カロリーの補助食品や、本人の好む物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って状態に合わせて仕上げ磨きを行っている。訪問歯科を利用しており、口腔ケア方法の指導も職員が受けている。毎週、義歯洗浄を行い、清潔を保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、個々の排泄状態の把握に努めている。様子観察をしながら失敗のないようにトイレ誘導等の支援をしている。また、状態に応じて紙パンツやパット類を使用しており、随時変更を行っている。	一人ひとりの排泄パターンや「できる事」「できない事」をよく見極め、職員間で共有して個別対応している。排泄に関するカンファレンスも随時しており、排泄の認識が曖昧だった人も改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を飲み、手作りヨーグルト、バナナ等の食材を積極的に取り入れている。何種類かの飲み物を用意し、個々に合わせた水分補給の支援をしている。体操など薬に頼らない生活を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の意向に添うよう、職員交代等を入浴介助を行うことがある。仲の良い入居者同士入浴している場合もある。時に夜間入浴も行っている。入浴拒否の方には色々な工夫で入浴の支援をしている。	週3回程度の入浴を原則としているが、入り方や時間帯はその人・その時の希望を優先させる為計画通りとはならない。拒否の人に対してもあの手・この手の方法を試み、あるキーワードを見付けて職員が共有している例も聞いた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡を取り入れたり、心地よく眠りにつけるように日中の活動に配慮している。入居者様の体調、生活スタイル等を考慮し、休息がとれるよう支援をしている。入眠前の関わりの工夫をし自然な入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は日付、名前、時間を声に出して自他共に確認を行い、事故防止に努めている。薬の処方や量に変更があれば申し送り、詳細に記録をして状態観察し、異常あれば医療機関との連携も図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の情報や、本人との会話の中から趣味や役割を見つけ、個々に合わせて楽しみながら出来るように工夫している。遠出の外出や季節毎のイベントを行い、季節感を感じながら気分転換できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者と買物、散歩、日光浴等の外出の支援をしている。四季の景色や雰囲気を楽しめるよう季節毎に遠出をしている。外食も楽しんでいる。大きな行事には、家族、地域の方々に参加して頂き交流を深めるように努めている。	「菊花展を見に行こう」「寿司を・ウドを食べに行こう」等、季節やイベントとしての外出の他に、冬では少し暖かそうな日には散歩や買物に出掛けている。ホーム内の敷地を歩いたり、日光浴もしている写真がみられた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足の為、家族と相談しながら小額を手元を持ってもらい、自分で買物ができるようにしている。それとは別に家族から預かったお金を事務所で管理し、買物等で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がかかると相談室にて話をし、頂き、ゆっくりと電話ができるようにしている。 年末には、年賀状が出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールには花・作品を飾り、季節感を取り入れた雰囲気作りをしている。1ユニット毎に1ヶ所のトイレにドアとドアの前にカーテンを設置し、プライバシー保護を図っている。入居者の状態に合わせ、テーブルやソファの配置換えをし気分転換をしている。	ホームに入る前に先ず良い気候の時は楽しめる広場があり、利用者の氏名付きの花鉢や畑の野菜が目につき、「園芸部長さん（職員）の思いが伝わってくる。建物内の壁やあちこちに利用者の生活の様子や作品が見られて心豊かになる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2か所に分け設置するなど、1人で、また、気の合う入居者様同士で過ごせるように工夫している。 廊下・玄関にイスを置き、景色や写真を見ながら、家族・入居者様同士で寛いでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた筆筒等を置き、本人が安全で使いやすいように配置している。思い出の写真等を持ち込み、穏やかに過ごせるようにしている。プライバシー保護の為、居室の入り口には、のれんをしている。	個々に思い思いの部屋になっていて良い。会って直ぐに案内してくれたAさんの部屋には堰を切ったように話すその謂れの写真や作品がたくさん飾られ、その顔は誇らしげだった。読んでいる本や私物も見せてくれて、ここでの暮らしの様子がよく分かった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人のできること・わかることを見極め、トイレ・居室前・洗面所等に目印をつけて、また、物の配置も工夫している。 廊下・トイレ内・洗面所・浴室等に手すりを設置している。		